

## 全身性金属アレルギー

藤沢市民病院皮膚科診療部長

高橋 一夫

(聞き手 池田志孝)

食事性金属アレルギーについてご教示ください。

皮膚科の先生が、食事よりコバルト、亜鉛等を多く摂取すると汗より分泌され、汗の中に出た金属のアレルギーで、皮膚炎を起こすことがありますと言われていました。私は初めて耳にする内容でした。疾患の説明、気をつけないといけない食事、治療法等についてご教示ください。

<岡山県勤務医>

**池田** まず、質問にあります食事性金属アレルギー、この名前ですが、正確な名前というのがありますか。

**高橋** 全身性金属アレルギーというのが正式な名称だと思われまます。これは日本発の病名です。フィッシャー先生という接触皮膚炎治療で有名な先生が、systemic contact dermatitis、全身性接触皮膚炎という概念を提唱されたのですけれども、それは接触アレルギーがまずありまして、引き続き全身性に拡大していくということで、接触感作が必須なのですが、この場合の全身性金属アレルギーと申しますのは、時にパッチテストが陰性でも、内服テストが陽性の方がいらっしゃるの、厳

密にはsystemic contact dermatitisというフィッシャー先生が言ったのとはちょっと異なるということで、日本発と申しました。有名な兵庫県立加古川医療センターの足立先生が、新たに病名として全身性金属アレルギーと呼ぶようにしようということを行ったのが始まりです。

**池田** 従来のほかの一般的な慢性湿疹であるとかアトピー性皮膚炎と違うということで名前がついたのでしょうか、何か特徴的な皮膚症状というのはありますか。

**高橋** 一般的によくいわれているのは、汗をかきやすい手掌に、異汗性湿疹と申しまして、プツプツ、細かな丘

疹が出て、ごく小さな水疱を伴ったような、そういう異汗性湿疹が有名です。あと、貨幣状湿疹なども有名です。アトピー性皮膚炎の患者さんにそれがかぶさると、アトピーの増悪なのか、全身性金属アレルギーなのかかわからなくなるような、そういうオーバーラップ例なども知られています。

**池田** 逆にいいますと、一般的なよくある皮膚病とこの全身性金属アレルギーの鑑別というのは、見た目だけではなかなか難しいということなのでしょう。

**高橋** 難しいと思います。

**池田** 診断のポイントはどの辺にあるのでしょうか。

**高橋** 例えば、汗をかいたときに発疹がすごく悪くなるようなタイプとか、あとは手掌、足蹠に皮疹が強く出ているタイプとか、他にIgEは全然高くないタイプのアトピー性皮膚炎と思えるようなケースとかは要注意だと思います。

**池田** 逆にいうと、手のひら、足の裏、そこにまず症状があるということが基本なのでしょう。

**高橋** そうということが診断の際には重要かと思えます。

**池田** それプラス、ほかの部位に痒疹であるとか貨幣状湿疹であるとか、アトピー性皮膚炎の症状があるという方で、全身性の金属アレルギーを疑うということですね。先ほどありました

パッチテストで金属アレルギーがあるかどうかを見るということですが、実際は何%ぐらいの方がこの病名を疑ってパッチテストをやったときに陽性になるものなのでしょう。

**高橋** そこは難しく、母集団がなかなか規定できない、きっちりエントリーできないということもあると思うのですが、ちょっと別の言い方をしますと、「この人、金属アレルギーが基礎にあるかもしれない」といってパッチテストをやって陽性に出た中で、最終的に全身性の金属アレルギーと診断できる人というのは1割もないと思われるので、パッチテストから入ってそれが陽性で全身性の金属アレルギーというケースはすごく少ないと考えられます。

**池田** 先ほど内服テストというお話が出ていますけれども、具体的にはどういう方法が行われるのですか。

**高橋** 不純物などが入っておりますと、非常に健康障害上、問題になりますので、私たちがよくやるのは、必須金属が多量に入っているチョコレートとかナッツとか穀類など、そういうものを意識的に5日間ほど負荷していただいて、もともとの皮膚の症状が悪化したとか、すごくかゆみが出て、食事と関係しているに違いないとか、そういう臨床的なものをもって金属アレルギーと診断していることが多いです。

**池田** 特定の金属の純粋なものを飲

んでいただくとか、そういうことではないのですね。逆にいうと、一般的な食品で、疑われている金属を特異的に含んでいるものというのは少ないですね。

**高橋** ニッケル、クロム、コバルトみたいなものが比較的多いものを摂ったときに悪くなるかどうかを見て、それで内服テストの代わりにしているようなところがあります。

**池田** 次は除去食でしょうか。

**高橋** はい。

**池田** 除去食を行うことによって症状が緩和するといえますか、そういうことも一つの参考になるのでしょうか。

**高橋** はい。

**池田** 質問の中で、気をつけないといけない食事というのが出てまいりますけれども、そういう意味で先ほど紹介いただいたナッツ、チョコレート、そのほかにはどのようなものがありますか。

**高橋** この病気の概念の先達をつけた加古川医療センターの足立先生の文献などを見られるのが一番だと思います(表)。

**池田** 足立先生のまとめられた表を拝見すると、ニッケル、コバルト、クロム、マンガン、亜鉛、銅、それぞれで多い食物、そうでない食物というのが一覧になっていますね。けっこう多いですね。例えば、豆類はすべてと書いてあるのがニッケルであったり、

木の実、穀類、野菜、キノコ、海藻、肉類、卵、たくさんですね。全部といってもいいぐらいですね。金属の種類にもよりますけれども。この中で、特に重要な金属といえますと何でしょう。やはりニッケル、コバルトなのでしょううか。

**高橋** ニッケル、コバルト、クロムです。亜鉛は非常に大事なものなので、変に除去して体調不良になっても困りますので積極的に除去はしません。

**池田** ニッケル、コバルト、クロムですね。豆類、木の実、野菜にもいっぱい入っていますね。なかなか気をつけるといっても難しいですね。実際、治療に際してどういった食事の指導をされるのでしょうか。

**高橋** この表のコピーを外来に置いておきまして、これを見せて、例えばクロムアレルギーがある人だったら、こういうものにたくさん入っているので、こういうものはたくさん摂らないようにしようというような言い方をします。

例えばニッケルアレルギーがある人が、体にいいからといって、ハウレンソウをいっぱい取っているような人がいらっしやいます。そうすると、ハウレンソウにはニッケルがけっこう入っているものなので、体にいいからといって、毎食毎食、たくさん摂っていると、こういうアレルギーが顕著に出やすく、「それをやめたらどう？」と

表 金属制限食指導表（金属を多く含む食品）

	Ni	Co	Cr	Mn	Zn	Cu
豆類	すべて	すべて		すべて	すべて	すべて
木の実	すべて	すべて		すべて	すべて	すべて
穀類	玄米・蕎麦 オートミール			玄米・小麦	玄米・小麦 小麦胚芽	
野菜	ハウレンソウ レタス カボチャ キャベツ	キャベツ	馬鈴薯 玉葱	ワラビ パセリ レンコン		
キノコ	マッシュルーム		マッシュルーム	椎茸	椎茸	椎茸
海藻	すべて			海苔	海苔	
肉類		レバー		レバー	レバー・牛肉	レバー
卵					卵黄	
魚介類	カキ、サケ ニシン	ホタテ貝			カキ、カニ タコ、干シタラ	カキ、シャコ
香辛料	すべて	すべて	すべて	すべて	すべて	すべて
飲み物	紅茶、ココア ワイン	紅茶、ココア ビール コーヒー	紅茶 ココア	紅茶 日本茶	日本茶	紅茶 日本茶
菓子	チョコレート	チョコレート	チョコレート	チョコレート	チョコレート	チョコレート
嗜好品	タバコ					
薬剤	大黄末					

1. 水道水は流し始めの5分間は使用しないこと。
2. 缶詰食品、缶詰飲料は摂取しないこと。
3. 調理器具にステンレス製品やメッキ製品の使用は避けること。
4. 必須金属も含まれるため、必ず医師の指導のもとに制限食を行うこと。

って、1週間後、2週間後、「何かいい気がする」というのがうまくいくパターンです。

あとは、嗜好品で紅茶とココアがけっこう好きだといって、欠かさず毎日2～3杯飲んでいるという方とか、チョコレートが好きでいっぱい食べていると言っている人が、「それをやめてみてください」といったときに、うま

く臨床的な効果があって、「ああ、これは全身性金属アレルギーの症例なんだろう」と、逆説的にわかることが多いと思います。

**池田** たくさん入っているのはチョコレートですね。チョコレートもやめざるを得ないですね。

**高橋** アレルギーに甘いものはよくないと主張される方がいますけれども、

甘いものを避けると間接的に金属が除去されていてよくなるような方もいらっしゃると思います。

**池田** それともう一つ、薬物療法ですが、そういったことはされるのでしょうか。

**高橋** よく使うのはインタール、一般名はクロモグリフェイト、腸の粘膜保護を介して金属が吸収されないようにコンディショニングするという意味なのかもしれませんが、そういうものを使ったり、あとはミノマイシンが効

いたという症例報告も散見されてまして、その2つでしょうか。

**池田** ミノマイシンもやはりキレート作用ですか。

**高橋** キレートです。

**池田** 全身性金属アレルギーというのはなかなか難しいですね。患者さんの生活習慣をよく聞いて、食べ物との関連性を皮膚症状との兼ね合いで見て診断していくということが重要ということですね。どうもありがとうございました。